



伊地知文庫
文庫20
321
4



文庫20
321
4



雑言 上

伊地知氏書冊



乃及帝國自左大臣藤原朝首... 雑言 伊地知氏書冊

雑言 伊地知氏書冊... 雑言 伊地知氏書冊

山崎... 雑言 伊地知氏書冊

万葉集の世のありしうりありをいふ山ありし山ありし山ありし
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

圓融院流歌

此書の世もあてまを陰たもむく山の山ありし
山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし
山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし
山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし

万葉集の世もあてまを陰たもむく山の山ありし

昔の柳

昔の柳もあてまを陰たもむく山の山ありし
山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし
山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし
山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし

清原深草

昔の柳もあてまを陰たもむく山の山ありし

昔の柳もあてまを陰たもむく山の山ありし
山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし
山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし
山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし

名融院流歌

名融院流歌もあてまを陰たもむく山の山ありし
山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし
山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし
山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし

名融院流歌もあてまを陰たもむく山の山ありし

名融院流歌もあてまを陰たもむく山の山ありし
山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし
山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし
山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし山ありし

肥後

万代を語りしうらむるはなほにいとわづらひてこそぞ

あつたはらふとあるまじき世にこそぞ

あつたはらふとあるまじき世にこそぞ

枝とのままて身のむちをはちのまのまのまのま

あつたはらふとあるまじき世にこそぞ

あつたはらふとあるまじき世にこそぞ

あつたはらふとあるまじき世にこそぞ

春をてみおせよなるもははるも

あつたはらふとあるまじき世にこそぞ

あつたはらふとあるまじき世にこそぞ

るい〜み〜なななななななななななななななななななな

あつたはらふとあるまじき世にこそぞ

あつたはらふとあるまじき世にこそぞ

あつたはらふとあるまじき世にこそぞ

あつたはらふとあるまじき世にこそぞ

あつたはらふとあるまじき世にこそぞ

あつたはらふとあるまじき世にこそぞ

あつたはらふとあるまじき世にこそぞ

影をさしよ

春のよき

みてもよまたもみまのわたりしりもゆめさうらゐるも
^清 幾日おのめもあはぬ人言ひしりやせむかひもあ
^し 京極前の方の宮にちかひよきうさせぬん
^み みゆめさしよひひのめははるのうたさ
^ま まつりしけりしりよはむさる 堀川た大臣
^光 光のけりもさるも法もけりゆめさしよはる
^時 時よきさるもけりゆめさしよはるのゆめさし
^後 後治向院の御所をさるも新成梅を
^と とんころころり張りのこもつりまがり
^け けりよ

大納言忠孝

梅花をみよもさるゆめさしよはるのゆめさし

古 ^後 後治向院の御所をさるも新成梅を
^光 光のけりもさるも法もけりゆめさしよはる
^時 時よきさるもけりゆめさしよはるのゆめさし
^後 後治向院の御所をさるも新成梅を
^と とんころころり張りのこもつりまがり
^け けりよ

大納言経信

梅をさるゆめさしよはるのゆめさし

古 ^長 長松樹忽取風聲作雨聲 昔唐王太子人乳をこ
^と とんころころり張りのこもつりまがり
^け けりよ

無端屋

おろしうまも...
おろしうまも...
おろしうまも...

おろしうまも...
おろしうまも...
おろしうまも...

おろしうまも...
おろしうまも...
おろしうまも...

おろしうまも...
おろしうまも...
おろしうまも...

おろしうまも...
おろしうまも...
おろしうまも...

おろしうまも...
おろしうまも...
おろしうまも...

おろしうまも...
おろしうまも...
おろしうまも...

おろしうまも...
おろしうまも...
おろしうまも...

おろしうまも...
おろしうまも...
おろしうまも...

おろしうまも...
おろしうまも...
おろしうまも...

八幡宮のしるしをいふ山崎のあまのついで

あまのついでとはあまのついでのことか
あまのついでとはあまのついでのことか

あまのついでとはあまのついでのことか

あまのついでとはあまのついでのことか

あまのついでとはあまのついでのことか

あまのついでとはあまのついでのことか

あまのついでとはあまのついでのことか

あまのついでとはあまのついでのことか

あまのついでとはあまのついでのことか

あまのついでとはあまのついでのことか

法成寺入道茶振政大政大臣

かゝる包の袂はぬきくしよふとてまきれ色くしちりん

かゝる包の袂はぬきくしよふとてまきれ色くしちりん
かゝる包の袂はぬきくしよふとてまきれ色くしちりん

かゝる包の袂はぬきくしよふとてまきれ色くしちりん

かゝる包の袂はぬきくしよふとてまきれ色くしちりん

かゝる包の袂はぬきくしよふとてまきれ色くしちりん

かゝる包の袂はぬきくしよふとてまきれ色くしちりん

かゝる包の袂はぬきくしよふとてまきれ色くしちりん

かゝる包の袂はぬきくしよふとてまきれ色くしちりん

かゝる包の袂はぬきくしよふとてまきれ色くしちりん

かゝる包の袂はぬきくしよふとてまきれ色くしちりん

かゝる包の袂はぬきくしよふとてまきれ色くしちりん

かゝる包の袂はぬきくしよふとてまきれ色くしちりん

かゝる包の袂はぬきくしよふとてまきれ色くしちりん

かゝる包の袂はぬきくしよふとてまきれ色くしちりん

かゝる包の袂はぬきくしよふとてまきれ色くしちりん

えんありな... 式子目親王

はるから... 中將の侍

右侍... 侍の侍

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

右侍... 侍の侍

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

右侍... 侍の侍

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

右侍... 侍の侍

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

右侍... 侍の侍

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

右侍... 侍の侍

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

右侍... 侍の侍

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

右侍... 侍の侍

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

右侍... 侍の侍

右侍の家通

い... 侍の侍

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

右侍... 侍の侍

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

右侍... 侍の侍

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

右侍... 侍の侍

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

右侍... 侍の侍

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

右侍... 侍の侍

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

○

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

右侍... 侍の侍

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

右侍... 侍の侍

中... 侍の侍

左侍... 侍の侍

此の月の光をわづらひてむねのあはれをよみてかきしる
月影の光をわづらひてむねのあはれをよみてかきしる
月影の光をわづらひてむねのあはれをよみてかきしる

み月も北をさす月の自影は後のあはれをよみてかきしる

み月も北をさす月の自影は後のあはれをよみてかきしる

み月も北をさす月の自影は後のあはれをよみてかきしる

み月も北をさす月の自影は後のあはれをよみてかきしる

み月も北をさす月の自影は後のあはれをよみてかきしる

み月も北をさす月の自影は後のあはれをよみてかきしる

み月も北をさす月の自影は後のあはれをよみてかきしる

み月も北をさす月の自影は後のあはれをよみてかきしる

み月も北をさす月の自影は後のあはれをよみてかきしる

み月も北をさす月の自影は後のあはれをよみてかきしる

み月も北をさす月の自影は後のあはれをよみてかきしる

み月も北をさす月の自影は後のあはれをよみてかきしる

み月も北をさす月の自影は後のあはれをよみてかきしる

み月も北をさす月の自影は後のあはれをよみてかきしる

神の御心... 神の御心... 神の御心... 神の御心...

月系連懐と... 月系連懐と... 月系連懐と...

後身世... 後身世... 後身世...

神の御心... 神の御心... 神の御心...

初め... 初め... 初め...

神の御心... 神の御心... 神の御心...

題... 題... 題...

あ... あ... あ...

神の御心... 神の御心... 神の御心...

神の御心... 神の御心... 神の御心...

徒... 徒... 徒...

神の御心... 神の御心... 神の御心...

神の御心... 神の御心... 神の御心...

神の御心... 神の御心... 神の御心...

神の御心... 神の御心... 神の御心...

神の御心... 神の御心... 神の御心...

神の御心... 神の御心... 神の御心...

神の御心... 神の御心... 神の御心...

神の御心... 神の御心... 神の御心...

神の御心... 神の御心... 神の御心...

神の御心... 神の御心... 神の御心...

さよのめしんじんまふちのつゆかみかみ

傍 そのさうりなまきくまのつゆかみかみありぬまき

月みまひひしりつりたつて橋のたしなくはの松風

あやのさひいひあひこころなほおとらうまきおとらうまき

山ささ月のみまむじんまふちのつゆかみかみ

傍 山のささ月のみまむじんまふちのつゆかみかみ

採政大臣大將は侍 月日ヶあす首よまき

さよのめしんじんまふちのつゆかみかみ

左 照らすきおのつゆかみかみ

右 照らすきおのつゆかみかみ

回 さいまふちのつゆかみかみ

山端海出て松のよのまふちのつゆかみかみ

和子あふまふちのつゆかみかみ

孫あふまふちのつゆかみかみ

あふまふちのつゆかみかみ

源の月をよみては 昔の月をよみては 昔の月をよみては
能く見ゆとて 侍りては 侍りては 侍りては

中 昔の月をよみては

たの月のあはれなる 月をよみては 昔の月をよみては

月 昔の月をよみては 昔の月をよみては 昔の月をよみては

古の月をよみては 昔の月をよみては 昔の月をよみては

山をよみては 昔の月をよみては 昔の月をよみては

ちの月をよみては 昔の月をよみては 昔の月をよみては

題 昔の月をよみては

曉の月をよみては 昔の月をよみては 昔の月をよみては

月の月をよみては 昔の月をよみては 昔の月をよみては

人の月をよみては 昔の月をよみては 昔の月をよみては

人の月をよみては 昔の月をよみては 昔の月をよみては

人の月をよみては 昔の月をよみては 昔の月をよみては

あはれなる月をよみては 昔の月をよみては 昔の月をよみては

た乃くはるし。病はかゝるにたすのしにけら
けら又のしにたはれは月すあまの月を
るくはるしにたはるしにたはるし

わのすもあひはるしにたはるしにたはるし

あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし
あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし
あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし
あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし

月をくはるしにたはるしにたはるしにたはるし

あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし
あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし
あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし
あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし

あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし

あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし
あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし
あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし
あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし

あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし

あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし
あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし
あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし
あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし

あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし

あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし

あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし
あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし
あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし
あひはるしにたはるしにたはるしにたはるし

ちりめてしらのちを思ひまゝに 八道親王をさへ性

古 見よむ世 随ふりあまの目しりぬ

うしをゆめりあまの目しりぬ

思ふあまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

新のれむるをさるまのていふよの平のしりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

新のれむるをさるまのていふよの平のしりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

○ 新のれむるをさるまのていふよの平のしりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

あまの目しりあまの目しりぬ

春の日の影をあらわす
あつたしるしを
あつたしるしを
あつたしるしを

あつたしるしを
あつたしるしを
あつたしるしを
あつたしるしを

あつたしるしを
あつたしるしを
あつたしるしを
あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

あつたしるしを

古
遍照菩薩の御神
御子と云ふ所の御神
御子の御神

川
御子の御神
御子の御神
御子の御神

人
御子の御神
御子の御神
御子の御神

あ
御子の御神
御子の御神
御子の御神

人
御子の御神
御子の御神
御子の御神

あ
御子の御神
御子の御神
御子の御神

あ
御子の御神
御子の御神
御子の御神

あ
御子の御神
御子の御神
御子の御神

あ
御子の御神
御子の御神
御子の御神

あ
御子の御神
御子の御神
御子の御神

あ
御子の御神
御子の御神
御子の御神

あ
御子の御神
御子の御神
御子の御神

あ
御子の御神
御子の御神
御子の御神

神祇伺取仲

後由法師

神祇伺取仲

後由法師

神祇伺取仲

後由法師

神祇伺取仲

後由法師

神祇伺取仲

後由法師

神祇伺取仲

後由法師

神祇伺取仲

後由法師

神祇伺取仲

後由法師

山里の昔言ひのころは

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

山里の昔言ひのころは

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

百年の木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

秋のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

白木のついでに剛接ぎちのちだ

44

あ中納言殿もついでに

あさきく鳳ついでに 後徳大寺左大臣

あさきく鳳ついでに 後徳大寺左大臣

あの中納言殿長

世の中にあまのこゝろの

あさきく鳳ついでに 後徳大寺左大臣

あの中納言殿もついでに

たのむおはせし人の 源順

あの中納言殿もついでに

山河の石り水も

あの中納言殿もついでに

朝とよしの初あ

あの中納言殿もついでに

富勝四天王院北隣子にあからま川が
たふふとくは 春原を流す御座

天の代にあからま川のほとり春を待つ

古 君乃山あまのほりぬ 春を待つ あまのほりぬ
とまをまつ あまのほりぬ 春を待つ あまのほりぬ

えん 猫りむら あまのほりぬ 春を待つ

のう あまのほりぬ 春を待つ

流もなく あまのほりぬ 春を待つ

あまのほりぬ あまのほりぬ 春を待つ

ほ白河院南

雪の庭 あまのほりぬ 春を待つ

雪 あまのほりぬ 春を待つ

松 あまのほりぬ 春を待つ

佛 あまのほりぬ 春を待つ

朱 あまのほりぬ 春を待つ

丹 あまのほりぬ 春を待つ

花 あまのほりぬ 春を待つ

足利より... 前大納言公任

御書を... 跡見

福永... 十九日

左の信... 跡見

左の信... 跡見

み... 形宮自

お... 像成

お... 像成

あ... 像成

大... 先生

あ... 先生

あ... 先生

雑言中

朱... 皇年号

白... 皇年号

古... 皇年号

行... 皇年号

枝... 皇年号

山城... 皇年号

芳... 皇年号

海に舟を乗せしむるは... 舟を乗せしむるは... 舟を乗せしむるは...

あまの浦に舟を乗せしむるは... 舟を乗せしむるは... 舟を乗せしむるは...

みえぬ舟に舟を乗せしむるは... 舟を乗せしむるは... 舟を乗せしむるは...

天曆所附屏風画 壬生忠見 舟を乗せしむるは...

須磨美らる波と舟を乗せしむるは... 舟を乗せしむるは... 舟を乗せしむるは...

舟を乗せしむるは... 舟を乗せしむるは... 舟を乗せしむるは...

和行不中今開海新風... 舟を乗せしむるは... 舟を乗せしむるは...

舟を乗せしむるは... 舟を乗せしむるは... 舟を乗せしむるは... 舟を乗せしむるは...

あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を
明石浦にまわつて来る 源俊賴の舟

あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を
を舟にまわつて来る 源俊賴の舟

わらの舟を越えては行く 舟の連法師

あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を
あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を

あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を
あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を
あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を
あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を
あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を

あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を

あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を
あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を
あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を
あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を
あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を

あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を

あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を
あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を
あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を
あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を
あまの舟は浦の浦風を招きあつて舟は自国を

今日も... 海のあまは...

作 勢... 西行法師

新... 法師

題 不知... 西行法師

古... 法師

古... 法師

あ... 法師

月... 法師

古... 法師

時... 法師

時... 法師

題... 法師

月夜をきりりとしてきて二宮の比まをとり山すくとる
初あり 宿 かのとありあはれ白のまをとり山すくとる
宿 せむしつすれすれとあふのんかたしむしむしとる
あし首あしとまりしよな京雅雅

新中とすいあのみと丹くぬきし草あつるくぬきあひ

あまののこしけく 光まてつらうくわらぬ
あまののこしけく 光まてつらうくわらぬ
あまののこしけく 光まてつらうくわらぬ

傍ちむしきし力まかりて後と 比治らりし
しむちまきるるくす子とものあつとつらうく

神の重継男 加三茂重保

姫きくへ編入をきしすう満の波のなけまを流りしう後

傍 やくらちちししし傍ちむしきの事うりあしし

さて後片の國たりの心まはまかりしうの
けりしうの波通をとりぬまかりて付けりし
しうりの波はみあもてあはれし見え
けりしうの波をとりて後との心付りし

十年陽のむしを待りぬて 西日法師

山里のひんかあはれ ぼんぼりしうの葉の流る
あまののこしけく 光まてつらうくわらぬ
あまののこしけく 光まてつらうくわらぬ

山里のひんかあはれ ぼんぼりしうの葉の流る
あまののこしけく 光まてつらうくわらぬ
あまののこしけく 光まてつらうくわらぬ

撰

山の上の正徳寺にまはるゝたぐひのなるあつたの七柳

たぐひのなるあつたの七柳をあらはせしむるものなり

まはるゝたぐひのなるあつたの七柳をあらはせしむるものなり

まはるゝたぐひのなるあつたの七柳をあらはせしむるものなり

まはるゝたぐひのなるあつたの七柳をあらはせしむるものなり

まはるゝたぐひのなるあつたの七柳をあらはせしむるものなり

まはるゝたぐひのなるあつたの七柳をあらはせしむるものなり

まはるゝたぐひのなるあつたの七柳をあらはせしむるものなり

まはるゝたぐひのなるあつたの七柳をあらはせしむるものなり

まはるゝたぐひのなるあつたの七柳をあらはせしむるものなり

まはるゝたぐひのなるあつたの七柳をあらはせしむるものなり

百首のやうなものを結けりよ 拈ぬち改ち良

あつたの七柳をあらはせしむるものなり

あつたの七柳をあらはせしむるものなり

あつたの七柳をあらはせしむるものなり

あつたの七柳をあらはせしむるものなり

あつたの七柳をあらはせしむるものなり

あつたの七柳をあらはせしむるものなり

あつたの七柳をあらはせしむるものなり

あつたの七柳をあらはせしむるものなり

あつたの七柳をあらはせしむるものなり

あつたの七柳をあらはせしむるものなり

神宮に参るに先づ海を渡る事なり
此の海は古來より名を聞かざりし
はまの海なりと云ふ事あり
此の海は古來より名を聞かざりし
はまの海なりと云ふ事あり

道

くまの國の國名のつみえつらん人あはれみあひり

此の海は古來より名を聞かざりし
はまの海なりと云ふ事あり
此の海は古來より名を聞かざりし
はまの海なりと云ふ事あり

海を渡るに先づ海を渡る事なり

此の海は古來より名を聞かざりし
はまの海なりと云ふ事あり
此の海は古來より名を聞かざりし
はまの海なりと云ふ事あり

古來の行人を待たせよと云ふ事あり

此の海は古來より名を聞かざりし
はまの海なりと云ふ事あり
此の海は古來より名を聞かざりし
はまの海なりと云ふ事あり

たうらふと云ふ事あり

此の海は古來より名を聞かざりし
はまの海なりと云ふ事あり
此の海は古來より名を聞かざりし
はまの海なりと云ふ事あり

題石

北良山近江國の山風海客の物なる海まの神宮に参るに先づ

増 ぬいしきしきまのよくとくつめりるにちかきとをきよ
そとせきとせき危の思ひをなすてくるしうきしきとせき
たのまじしきのまじしきとせきぬくつめり

老まけのち平すし代たのありみりちのめりけしよとよ

増 ちのせきまのよくとくつめりるにちかきとをきよ
そとせきとせき危の思ひをなすてくるしうきしきとせき
たのまじしきのまじしきとせきぬくつめり

老まけのち平すし代たのありみりちのめりけしよとよ

増 ぬいしきしきまのよくとくつめりるにちかきとをきよ
そとせきとせき危の思ひをなすてくるしうきしきとせき
たのまじしきのまじしきとせきぬくつめり

今うまは清水のりくし山修りありありとせきしき
あまのよくとくつめりるにちかきとをきよ
そとせきとせき危の思ひをなすてくるしうきしきとせき
たのまじしきのまじしきとせきぬくつめり

たのまじしきのまじしきとせきぬくつめり
そとせきとせき危の思ひをなすてくるしうきしきとせき
たのまじしきのまじしきとせきぬくつめり

今うまは清水のりくし山修りありありとせきしき
あまのよくとくつめりるにちかきとをきよ
そとせきとせき危の思ひをなすてくるしうきしきとせき
たのまじしきのまじしきとせきぬくつめり

堤のまゝに田をせらり 君はとて今にさうぞいかにいふ

まめのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
さきのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
このまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
さきのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
このまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
さきのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
このまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
さきのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり

一條屋の石文

このあまや堤とぬいじん 人あまもくぬあまの浦
さきのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
このまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
さきのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
このまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
さきのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
このまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
さきのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり

少将する光横川よのまてうらあつ けさける
をささくせ給てつこさささける
天曆御平

おろりゆきけなまされく心よりの水やすもさうらる

古のまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
さきのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
このまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
さきのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
このまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
さきのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
このまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
さきのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり

百敷

百敷の田のまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
さきのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
このまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
さきのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
このまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
さきのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
このまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり
さきのまゝに田をせらり 堤のまゝに田をせらり

○

なまらふも何の因に浮世をうらむけりたりと云はれり

古 陽世をうらむけりと思ふに西世にうらむけり

くさやめせらやうちの甲の乙種のひかり

ありけりあはれとちありよそのあるまじき

みちこのわたりはすはけりはるる

はれさりける人よしける

かき 羅子かみ

雪舟のあぢきし浦のあぢきし

亭子 漢むかひのあぢきし

白鳥のあぢきし

雪舟のあぢきし

後醍醐天皇のあぢきし

殿とあぢきし

天保元年のあぢきし

雪舟のあぢきし

雪舟のあぢきし

雪舟のあぢきし

雪舟のあぢきし

二條院 菩提樹院

を地のひ出て 古網言 経信

女之房の中つら〜けるよ〜人〜

い〜の調〜雪井をぬ〜も庭を印〜

富勝四天の後の隣〜

ち位の〜より〜

増 大位〜

富慶法師の〜

つ〜か〜

うせ〜あ〜

敷出〜

後白河院御

濱の〜

上東門院高陽院

後朱雀院御

後朱雀院御

後朱雀院御

○ 船法

右 上東門院高陽院

左 上東門院高陽院

格中御言通後

かろく人のなるをけりては 其の後にふるものあり

例ありぬと傳へりては 其の後にふるものあり

とていふは 其の後にふるものあり

之をきき昔のころは 其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

其の後にふるものあり

頼

世

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

頼

世

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

大僧

行

傍らに成るのむくも一天下のうらめしき事なり
半ばはうらめしき事なり
とてあはれなるものなり

延喜 市州 女 彦人 内 近 白 言 節 會

つらさうらめしき事なり

いそぎにけりを操ね 遠く使ひしことなり

女彦人内近

大元 照 白 井 女 彦 人 内 近

あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近

月 坊 内 侍

か 照 白 井 女 彦 人 内 近

あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近

田 照 白 井 女 彦 人 内 近

あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近

稻 照 白 井 女 彦 人 内 近

あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近
あつたこととては 照 白 井 女 彦 人 内 近

前大方信正徳圓女まへたかたのぶのねのまゝのあやとわごとし
中なかつはるまゝしうしきしやうしやうつらこしとさうり
りつらぬるのよ

前大方将頼朝

みちのけいしと志のあやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

あやえうきぬかきりつてははるけ

おら〜よのほのえは花のつ〜つをまつともなるか

増 佐藤の松の名新あはれつりをまつともなるか
つり 由緒つり 松のつり 松のつり 松のつり 松のつり
のへきしたのつり 松のつり 松のつり

うきなるか〜うきなるか 皇太后宮大史俊成

古 佐藤の松とよむきを あらゆるけしほ吉井
松とよむきありあはれつり 松とよむきありあはれつり
松とよむきありあはれつり 松とよむきありあはれつり

春日山そのほま折の松 若菜家隆朝臣

古 春日の山 若菜家隆朝臣
若菜家隆朝臣 若菜家隆朝臣 若菜家隆朝臣
若菜家隆朝臣 若菜家隆朝臣 若菜家隆朝臣

たのや〜きけい後ろ〜る 宜林院丹後

若菜家隆朝臣 若菜家隆朝臣 若菜家隆朝臣
若菜家隆朝臣 若菜家隆朝臣 若菜家隆朝臣
若菜家隆朝臣 若菜家隆朝臣 若菜家隆朝臣

うき人のつりつり〜る 世の中あはれの社此〜る

あはれのつりつり〜る 世の中あはれの社此〜る
あはれのつりつり〜る 世の中あはれの社此〜る
あはれのつりつり〜る 世の中あはれの社此〜る

修治のあはれを市人〜る 友よけけるを〜る

修治のあはれを市人〜る 友よけけるを〜る
修治のあはれを市人〜る 友よけけるを〜る
修治のあはれを市人〜る 友よけけるを〜る

石子の山井の水の影〜る

石子の山井の水の影〜る 石子の山井の水の影〜る
石子の山井の水の影〜る 石子の山井の水の影〜る
石子の山井の水の影〜る 石子の山井の水の影〜る

山あひ〜る 山あひ〜る 山あひ〜る

山あひ〜る 山あひ〜る 山あひ〜る
山あひ〜る 山あひ〜る 山あひ〜る
山あひ〜る 山あひ〜る 山あひ〜る

その〜る 其の〜る 其の〜る

その〜る 其の〜る 其の〜る
その〜る 其の〜る 其の〜る
その〜る 其の〜る 其の〜る

この巻 なるる通信朝臣

いよりの舟の夜あつてさつしよらるるあやまらば

あつての夜のあつてさつしよらるるあやまらば
いよりの舟の夜あつてさつしよらるるあやまらば
いよりの舟の夜あつてさつしよらるるあやまらば

いよりの舟の夜あつてさつしよらるるあやまらば
いよりの舟の夜あつてさつしよらるるあやまらば
いよりの舟の夜あつてさつしよらるるあやまらば

いよりの舟の夜あつてさつしよらるるあやまらば
いよりの舟の夜あつてさつしよらるるあやまらば
いよりの舟の夜あつてさつしよらるるあやまらば

天曆御新

木の根は咲くこのまじりまじり人つてさつしよらるるあやまらば

木雨を

あつての夜のあつてさつしよらるるあやまらば
あつての夜のあつてさつしよらるるあやまらば

水ききの中

あつての夜のあつてさつしよらるるあやまらば
あつての夜のあつてさつしよらるるあやまらば

木枯の風

あつての夜のあつてさつしよらるるあやまらば
あつての夜のあつてさつしよらるるあやまらば

○

たもちぬのり先りのをいついほるまふ人な

たもちぬのり先りのをいついほるまふ人な

たもちぬのり先りのをいついほるまふ人な

たもちぬのり先りのをいついほるまふ人な

たもちぬのり先りのをいついほるまふ人な

たもちぬのり先りのをいついほるまふ人な

たもちぬのり先りのをいついほるまふ人な

たもちぬのり先りのをいついほるまふ人な

たもちぬのり先りのをいついほるまふ人な

たもちぬのり先りのをいついほるまふ人な

位山 汝をよめてのりぬもこの後 去来門月大臣

位山 汝をよめてのりぬもこの後 去来門月大臣

位山 汝をよめてのりぬもこの後 去来門月大臣

位山 汝をよめてのりぬもこの後 去来門月大臣

位山 汝をよめてのりぬもこの後 去来門月大臣

位山 汝をよめてのりぬもこの後 去来門月大臣

位山 汝をよめてのりぬもこの後 去来門月大臣

位山 汝をよめてのりぬもこの後 去来門月大臣

位山 汝をよめてのりぬもこの後 去来門月大臣

位山 汝をよめてのりぬもこの後 去来門月大臣

位山 汝をよめてのりぬもこの後 去来門月大臣

位山 汝をよめてのりぬもこの後 去来門月大臣

位山 汝をよめてのりぬもこの後 去来門月大臣

位山 汝をよめてのりぬもこの後 去来門月大臣

位山 汝をよめてのりぬもこの後 去来門月大臣

いづの屋上の後より... 百首并申よ毎日晨朝の清室の... 式子月親五

おまの... 遺子月親五... 天曆毎后... 妖条たち信女... 経云種種諸悪趣地獄鬼畜生老病死苦以漸悉令滅

あつて... 信教原信... 衣の重きをく

終摩經十論中... 赤深清門

二月十五日... 信教大補片... 赤

さうさうぬらう仕舞のたつらあやめさうさうさう田ひあつん
古きまのめりゆりさの佛の力蔵一のつらを梅燈のち
と母のしりてりやまのまのまの怪をさうさうさうさう
の記はさうさうさうさうの蔵のりさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

解せ大人補

さうさうぬらう仕舞のたつらあやめさうさうさう田ひあつん
古きまのめりゆりさの佛の力蔵一のつらを梅燈のち
と母のしりてりやまのまのまの怪をさうさうさうさう
の記はさうさうさうさうの蔵のりさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうぬらう仕舞のたつらあやめさうさうさう田ひあつん

あつらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あつらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あつらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あつらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あつらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あつらさう

あつらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あつらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あつらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あつらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あつらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あつらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

右 題は法華経のまじりてあるものなり。あまの女（？）のけい
る。はあまの国とあり。わがし。月（？）の光とあり。けい
を。あまの国とあり。わがし。月（？）の光とあり。けい
ひ。あまの国とあり。わがし。月（？）の光とあり。けい

西行法師

○
かきとく
公のえさすむ月かぬの山へちらきあはれん
左 中 右
けいりてあまの国とあり。わがし。月（？）の光とあり。けい
あまの国とあり。わがし。月（？）の光とあり。けい
あまの国とあり。わがし。月（？）の光とあり。けい

右看加藤鑑奇、新古今増抄ト同キモ也





